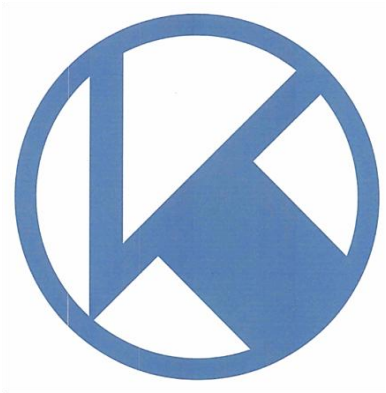
2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要



介護福祉学科
1年生

学校法人こおりやま東都学園

介護福祉学科　2025,2026年度生　履修一覧

1年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
基礎科目	学習スキル	
	体育	
人間と社会	介護福祉論	●
	生活と福祉Ⅰ	●
	生活と福祉Ⅱ	●
	社会参加とボランティア	●
	英会話	●
介護	介護論Ⅰ	●
	介護論Ⅱ	●
	対象理解	●
	ボディメカニクス	●
	安全管理と感染防止	●
	コミュニケーション技術	●
	対人援助技術	●
	介護基礎技術Ⅰ	●
	介護基礎技術Ⅱ	●
	家政学	●
	家政学演習	●
	レクリエーション支援技術Ⅰ	●
	レクリエーション支援技術Ⅱ	●
	介護過程理論	●
	運動機能障害者の介護過程	●
	総合演習Ⅰ	
	総合演習Ⅱ	
	実習Ⅰ－1	
	実習Ⅰ－2	
こころとからだのしくみ	老年学	●
	高齢者の介護	●
	認知症の理解	●
	認知症の介護	●
	からだの構造と機能Ⅰ	●
選択科目	法学	
	経済学	
	児童福祉論	

2年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
人間と社会	人間関係とコミュニケーション	●
	社会保障論	●
	福祉社会学	●
介護	ケアマネジメント論	●
	看取りのケアとグリーフケア	●
	居住環境学	●
	機能の維持及び回復	●
	介護福祉研究方法	●
	内部障害者の介護過程	●
	視覚・聴覚障害者の介護過程	●
	総合演習Ⅲ	
	総合演習Ⅳ	
	実習Ⅱ	
医療的ケア	介護と医療的ケア	●
	喀痰の吸引	●
	経管栄養	●
こころとからだのしくみ	障害の理解	●
	障害者の心理	●
	心理学	●
	からだの構造と機能Ⅱ	●
	疾病論	●
選択科目	地域福祉論	
	社会福祉援助技術演習	
	福祉事務所運営論	
	社会福祉施設経営論	
	社会福祉現場実習	
	社会福祉現場実習指導	

介護福祉学科　カリキュラムマップ

アドミッション・ポリシー（AP）　求める学生像	
AP①	慎重に考慮しながら行動できる学生
AP②	柔軟な発想をし、進んで困難や課題に取り組む学生
AP③	人とのかかわりを大切にし、地域社会に貢献したいと考える学生
AP④	生涯をとおし、探求心をもって介護福祉を学び続けられる学生

ディプロマ・ポリシー（DP）　卒業時に身につけている力	
DP①	介護福祉の進歩や社会の動向を踏まえ、介護福祉実践力の向上のため研鑽し続けられる
DP②	コミュニケーション力に基づいた、相互理解による援助的関係を築ける
DP③	論理的思考を活用し、科学的根拠に基づく介護実践ができる
DP④	多様なケア環境における多職種との協働・連携の中で介護福祉専門職としてその機能を発揮できる
DP⑤	人と人や地域社会とのつながりなどの問題に関心を持つことができる

カリキュラム・ポリシー(CP) 教育課程編成・実施方針	区分	1学年 前期	1学年 後期	2学年 前期	2学年 後期	求められる介護福祉士像 ／ DP 対応	
CP① 専門学校での学習の進め方を理解し、介護を実践するために必要な柔軟性を養う	基礎科目	学習スキル				1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する	DP①②
		体育					
	人間と社会	生活と福祉Ⅰ	生活と福祉Ⅱ	人間関係とコミュニケーション			
		英会話	社会参加とボランティア		福祉社会学		
			介護福祉論		社会保障論		
CP② チームケア、感染防止、医療的ケアを学び、医療職・福祉職など多職種と協働・連携する力を養う	介護	介護論Ⅰ	介護論Ⅱ	ケアマネジメント論		2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる 3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	DP①②③
		コミュニケーション技術	対象理解	看取りのケアとグリーフケア			
		ボディメカニクス	対人援助技術	安全管理と感染防止			
		介護基礎技術Ⅰ	介護基礎技術Ⅱ	機能の維持及び回復			
		レクリエーション支援技術Ⅰ	レクリエーション支援技術Ⅱ	介護福祉研究方法		4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる 5. QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って介護予防からリハビリテーション、看取りまで対応できる	DP③④
		家政学	運動機能障害者の介護過程	内部障害者の介護過程			
		家政学演習	介護過程理論	視覚・聴覚障害者の介護過程			
		総合演習Ⅰ	総合演習Ⅱ	総合演習Ⅲ	総合演習Ⅳ		
		実習Ⅰ		実習Ⅱ			
CP③ 介護を必要とする幅広い多様な人々に介護福祉を提供できる知識・技術および態度を備えた介護福祉専門職を育成するために教育課程を編成している	こころとからだのしくみ	からだの構造と機能Ⅰ		からだの構造と機能Ⅱ	障害の理解	6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず本人が望む生活を支えることができる 7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する 8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや的確な記録・記述ができる	DP②③④
		認知症の理解	認知症の介護		障害者の心理		
		高齢者の介護	老年学		心理学		
				介護と医療的ケア	疾病論		
					喀痰の吸引		
					経管栄養		
	社会福祉主事（選択）	児童福祉論	法学	社会福祉援助技術演習		9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる 10. 介護職の中で中核的な役割を担う ＋高い倫理性の保持	DP①⑤
			経済学	福祉事務所運営論			
				社会福祉施設経営論			
				社会福祉現場実習指導			
				社会福祉現場実習			

介護福祉学科　教員紹介

2026.3現在

氏名	実務経験および現在の活動	主な資格	担当科目	単位
窪木　守	社会福祉施設勤務を経て、 介護福祉学科専任教員 学生支援部長 「介護」、「人間と社会」、「社会福祉主事科目」科目担当	介護福祉士 介護支援専門員 社会福祉主事	ボディメカニクス 介護過程理論 介護福祉論 社会保障論 対象理解 介護基礎技術Ⅰ 介護論Ⅰ ケアマネジメント論	1 1 1 1 1 2 1 1
佐藤　篤	社会福祉施設勤務を経て、 介護福祉学科専任教員(学科長) 「介護」、「人間と社会」、「社会福祉主事科目」 科目担当	学士(経営情報学) 修士(社会福祉学)	学習スキル 社会参加とボランティア 生活と福祉Ⅰ 生活と福祉Ⅱ 介護論Ⅱ 福祉事務所運営論 社会福祉施設経営論 社会福祉現場実習 社会福祉現場実習指導	1 1 1 1 1 1 2 2 2

佐々木　謙太朗	社会福祉施設勤務を経て、 介護福祉学科専任教員(主任) 「介護」、「人間と社会」、「こころとからだのしくみ」 科目担当	介護福祉士 社会福祉士 福祉住環境コーディネーター2級 学士（社会福祉学） 国家資格 キャリアコンサルタント 介護支援専門員	コミュニケーション技術 総合演習Ⅰ～Ⅳ 人間関係とコミュニケーション 介護福祉研究方法 社会福祉援助技術演習 視覚・聴覚障害者の介護過程 内部障害者の介護過程 介護基礎技術Ⅱ	1 4(計) 2 1 1 1 1 1

相楽　愛美	本校卒業後、社会福祉施設勤務を経て、介護福祉学科専任教員 「介護」、「人間と社会」、「こころとからだのしくみ」、「社会福祉主事科目」 科目担当	介護福祉士 社会福祉主事 同行援護従業者応用過程 行動援護従業者養成研修課程修了	運動機能障害者の介護過程 高齢者の介護 対人援助技術 福祉社会学 地域福祉論 認知症の理解 認知症の介護	1 1 1 1 1 1 1

岩田　浩司 （兼任）	社会福祉施設勤務を経て、 介護福祉学科専任教員 「介護」、「人間と社会」、「こころとからだのしくみ」 科目担当	介護福祉士 社会福祉士 保育士 日本語教育能力検定 日本語教師養成講座420時間 学士(文学) 修士(開発学)	運動機能障害者の介護過程 高齢者の介護 対人援助技術 福祉社会学 地域福祉論 認知症の理解 認知症の介護	1 1 1 1 1 1 1

星　亜矢子	病院勤務を経て、 介護福祉学科専任教員「介護」、「こころとからだのしくみ」、 「医療的ケア」科目担当	看護師	介護と医療的ケア 喀痰の吸引 経管栄養 内部障害者の介護過程 からだの構造と機能Ⅰ.Ⅱ 看取りのケアとグリーフケア 安全管理と感染防止 疾病論	1 1 1 1 1 2(計) 1 1

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
学習スキル	佐藤　篤 一般	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

「学ぶ」ことの意味を理解するとともに、効果的な学習方法を身につけることを目的とする。自主学習・家庭学習・グループワークを通して、主体的に学ぶ姿勢および基礎的な学習スキルの習得を図る。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①学習する意義を理解できる	課題発見力
②自分の得意・不得意分野を理解できる	働きかけ力
③興味・関心をもつことの大切さを理解できる	考え抜く力

【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	「学ぶ」とはなにか	「学ぶ」ことの意味、なぜ学習が必要かを考える	個人
2	学生の基本マナー	学生としての基本的な態度・言葉遣い・あいさつ・時間管理・身だしなみ	個人
3	「コミュニケーション」とはなにか	他者との基本的なやりとりの方法を理解する	グループ
4	5W1Hで伝える	情報を整理し、わかりやすく伝える力を養う	グループ
5	第一印象について	第一印象が人間関係に与える影響を理解する	グループ
6	伝える力・聴く力を高める	自分の考えを伝える、相手の話を聴く姿勢	個人
7	メモ・ノート述	授業・実習記録を効率よく記述・活用できる	個人
8	グループワークの基礎	グループワークの目的と意義を考える	個人
9	学習計画の立て方	実習・試験を見据えた計画作成	個人
10	原稿用紙の書き方と実践	レポートの構成・文献の引用について理解する	個人
11	レポートの書き方	レポートの構成・文献の引用について実践する	個人
12	学習する生活を考える①	自主学習活動、国家試験に向けた意識づけ	個人
13	学習する生活を考える②	自主学習活動、国家試験に向けた意識づけ	個人
14	学習する生活を考える③	自主学習活動、国家試験に向けた意識づけ	個人
15	まとめ		

期末試験	筆記試験	評価方法	小テスト 30%	レポート 20%
			受講態度 50%	

【教科書】	適宜資料を配布する
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 反復学習することが望ましい

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
体育	山内　翼 一般	佐々木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	演習	2

【授業の概要・目的】

体育とは，健康の維持・増進と，運動機能の向上を図る実践の場である．ネットを境界線とする球技，対人を相手とする球技を通じて，個人的・集団的技能を習得し，チームワークとしての自主性，積極性，協調性を育み，ルールの順守という社会的態度を育成する．更に個々の技能を習得，熟練を目指し，運動実践をすることにより，気分転換，ストレス解消といった心の健康を育むことを学習し，理解する．

【学習目標(到達目標)】

①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動技能を高める。
②簡易ゲームを段階を追って行い、チームワークと技術向上を図る。
③楽しみながら実践することでコミュニケーション力を高める。
④体力増強を図り、逞しく生きる力を培う。
⑤簡易ゲームでは作戦を練り、互いに勝敗を競い合う。

【受講して得られる力】

考え抜く力
前に踏み出す力
チームで働く力

【履修上の注意】体操着、体育館シューズ、水分の準備を徹底すること。※私服、実習着、実習靴、アクセサリー等を身に付けたままの受講は認めない。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	運動活動におけるオリエンテーション	1.ストレッチング運動の方法 2.活動時における取り組み方　3.器具・機材の安全管理	グループ
2	バレーボール	簡易ゲームによる個々人の技能確認をする	グループ
3		実践に近い様式でのゲーム感覚の練習	グループ
4		男女別チームによるゲーム	グループ
5		男女混合によるゲーム (男女の基本的技能の差異を考えてのゲームコントロール)	グループ
6		男女混合によるゲーム (男女の基本的技能の差異を考えてのゲームコントロール)	グループ
7	卓球	個人技能の練習と習得	グループ
8		シングル・ダブルスの簡易ゲーム	グループ
9	バドミントン	個人技能の練習と習得	グループ
10		シングル・ダブルスの簡易ゲーム	グループ
11	バスケットボール	簡易ゲームによる個々人の技能確認をする	グループ
12		実践に近い様式でのゲーム感覚の練習	グループ
13		男女別チームによるゲーム	グループ
14		男女混合によるゲーム (男女の基本的技能の差異を考えてのゲームコントロール)	グループ
15	まとめ	これまでの到達度の確認と各活動の振り返りを行う。	グループ

期末試験	実技試験	評価方法	授業への貢献　60% 実技試験　40%	

【教科書】	なし
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】普段から体力づくりを意識した生活を心がけることが望ましい

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
介護福祉論 ※実務経験のある教員の授業科目	相楽　愛美 特別養護老人ホーム等（介護福祉士）7年勤務	相楽

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について、現場経験から得た基礎をもとに介護場面における倫理的課題について対応できるための学習をする。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①「人間の理解」を深めることができる	考え抜く力
②「人間の理解と尊厳」を理解できる	前に踏み出す力
③介護福祉士としての教養力を養うことができる	チームで働く力
④介護福祉士としての判断力を養うことができる	人間の尊厳と自立

【履修上の注意】	対人援助職であることを念頭におき、常に介護現場をイメージしながら授業に臨むこと。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	はじめに	専門職としての介護福祉とは	個人
2	社会と生活	経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化について学ぶ	個人
3	介護福祉と社会福祉	人間を福祉的視点から学ぶ	個人
4	人間の理解と尊厳について	生活支援の意義と目的について学ぶ	個人
5	介護福祉の理解①	介護福祉の基本的な考え方と社会的意義について学ぶ	個人
6	介護福祉の理解②	介護をとおして人間を理解することの意義を演習から学ぶ	グループ
7	介護福祉の理解③	他者を認めることの重要性について学ぶ	ペア
8	介護福祉の理解④	高齢者の生活から尊厳について考察する	個人
9	介護福祉の理解⑤	障害のある人の生活から自立・自律について考察する	個人
10	介護福祉の理解⑥	子どもの生活から人権(権利)について考察する	個人
11	人間の理解①	自己受容について学ぶ	個人
12	人間の理解②	自己表現について学ぶ	個人
13	人間の理解③	振り返りから自分自身を考察する	個人
14	人間の理解④	振り返りから自分自身を考察する	個人
15	まとめ		

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座1　人間の理解、　介護福祉用語辞典　7訂
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会参加とボランティア	佐藤　篤 一般	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

社会参加およびボランティア活動の意義や役割について理解を深め、地域社会の一員として主体的に関わる姿勢を身につけることを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①「ボランティア活動」とは何か理解を深めることができる ②「医療福祉職」について理解することができる ③対外的なコミュニケーションのマナーを理解できる ④「社会人として心構え」を理解できる	考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 人間と社会の理解

【履修上の注意】　シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	授業の進め方や概要を説明する	個人
2	社会参加の基本概念	社会参加の基本概念を理解する	個人
3	ボランティアとはなにか	ボランティアの変遷を知る	個人
4	ボランティア活動の種類	福祉・教育・環境・災害・国際分野のボランティアを知る	個人
5	地域社会とボランティア	地位コミュニティの役割を理解する	個人
6	高齢者と社会参加	高齢者の諸問題について考える	個人
7	障害者と社会参加	配慮あるかかわり方を知る	ペア
8	外国人・多文化共生とボランティア	多文化共生社会を考える	個人
9	災害ボランティア	災害時の支援活動について考える	個人・グループ
10	ボランティアと専門職	ボランティアと介護職の関係を知る	個人
11	ボランティア活動に必要な姿勢	傾聴・尊重・守秘について理解する	個人・グループ
12	社会参加と自己成長	ボランティアを通じて得られるもの	個人
13	自分にできる社会参加を考える	将来像と社会参加について考える	個人
14	社会参加プランをまとめる	「私の社会参加プラン」を発表する	個人
15	まとめ		

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 20% 筆記試験 60%	レポート 20%

【教科書】	適宜資料を配布する
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　積極的にボランティアに参加すること

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生活と福祉Ⅰ	佐藤　篤 一般	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

人が「生活する」とはどういうことか、福祉の考え方・仕組み・役割について基礎的に理解することを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①「生活」と「福祉」の基本的な意味を説明できる ②生活課題と福祉の関係を具体例で説明できる ③日本の福祉の基本的な仕組みを理解できる	考え抜く力 前に踏み出す力 社会の理解

【履修上の注意】　専門用語や概念など、説明できるように理解を深めること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	授業の進め方や概要を説明する	個人
2	生活の成り立ち	生活リズムと健康、生活が乱れると何が起こるかを理解する	個人
3	生活課題とはなにか	生活課題の考え方を事例を通して考える	個人
4	福祉とはなにか	「福祉」の意味、昔と今の福祉の違いを理解する	個人
5	日本の福祉の基本的な考え方	公的扶助・社会保険・社会福祉の役割を知る	個人
6	家族と生活	家族形態の変化と家族の役割を知る	個人
7	地域と生活	地域での支え合いと孤立問題について考える	個人
8	高齢者の生活と福祉	介護保険制度について理解する	個人
9	障害者の生活と福祉	障害の考え方、共生社会について考える	個人
10	子ども・家庭と福祉	子どもの生活環境、貧困・虐待問題について考える	個人
11	生活を支える制度とサービス	福祉サービスの種類と利用の流れについて知る	個人
12	生活支援と専門職	専門職としてのかかわり方、介護福祉士としての役割を理解する	個人
13	生活課題を抱える事例検討	生活支援の考え方、グループ発表をする	個人
14	授業全体の整理	生活と福祉のつながりを考察する	個人
15	まとめ		

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 30% 筆記試験 40%	レポート 30%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座2　社会の理解、福祉小六法
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　ニュース等のトピックスに興味・関心を持ちましょう

【本講義に関しての質問先】　担当教員　【質問方法】　教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生活と福祉Ⅱ	佐藤　篤 一般	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

「生活と福祉Ⅰ」で学んだ生活課題と福祉の基礎的理解を土台に、
より具体的な制度・支援・専門職の関わりについて学ぶことを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①生活課題を多面的に整理できる ②適切な福祉制度・サービスを説明できる ③専門職の役割と連携の重要性を理解できる	考え抜く力 前に踏み出す力 社会の理解

【履修上の注意】　専門用語や概念など、説明できるように理解を深めること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	授業の進め方や概要を説明する	個人
2	生活課題の複合性	高齢・障害・貧困の関係性を知る	個人
3	生活を支える制度の全体像	社会保険・公的扶助・福祉サービスを理解する	個人
4	高齢者の生活と福祉	独居・認知症・介護負担への生活支援の視点を理解する	個人
5	障害者の生活と福祉	自立生活と支援、合理的配慮とは	個人
6	生活困窮と福祉	貧困の構造、支援につなぐことの大切さを考える	個人
7	子ども・家庭を支える福祉	ひとり親家庭、虐待・養護、家庭支援の実際を理解する	個人
8	多文化社会の生活課題	医療・福祉へのアクセス、多文化共生の視点を養う	個人
9	地域包括ケアシステム	地域資源を活用し、地域で生活を支える仕組みを理解する	個人
10	生活支援と専門職連携	チームで支える福祉、多職種連携について理解する	個人
11	倫理と権利擁護	利用者の権利、虐待予防・防止の取り組みについて理解する	個人
12	相談支援とアセスメント	初期対応の考え方、生活全体を捉える方法	個人
13	事例検討①	高齢者・障害者の支援の組み立て	グループ
14	事例検討②	制度・支援の組み合わせを考察する	グループ
15	まとめ		

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 30% 筆記試験 40%	レポート 30%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座2　社会の理解、最新　介護福祉士養成講座3　介護の基本Ⅰ
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　ニュース等のトピックスに興味・関心を持ちましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
英会話	ロバート・ホルト 一般	佐藤(篤)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

The purpose of this course is to teach students "Beginner" level English and to give them the confidence to use this English in real situations. The course will focus on developing core skills for communication.

【学習目標(到達目標)】

Students will be expected to use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students). Over the course students will experience English in a number of formats (reading, listening, music etc) and will be expected to communicate in English and sing songs.

【受講して得られる力】
考え抜く力
前に踏み出す力
コミュニケーション技術

【履修上の注意】 Please respect the school rules

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	1A – Hello	Verb be (singular): I and you. Numbers 0–10; days of the week.	個人
2	1B – Where are you from?	Verb be (singular): He, she and it. Countries.	個人
3	Practical English: How do you spell it?	The alphabet and spelling. Spelling practice.	個人
4	2A – We aren't English. We're American.	Verb be (plural): We, you, they. Nationalities.	個人
5	2B – What's your phone number?	Wh– and How questions with be. Phone numbers; numbers 11–100.	個人
6	3A – What's in your bag?	Singular and plural nouns; a / an. Vocabulary – small things.	個人
7	3B – Is that a hat?	This / That / These / Those. Vocabulary – Souvenirs.	個人
8	Practical English: Can I have an orange juice, please?	Saying and understanding prices. The use of money and numbers.	個人
9	4A – Family and friends.	Possessive adjectives; possessive 's. Vocabulary – people and family.	個人
10	4B – Big cars or small cars?	Adjectives. Colours and common adjectives.	個人
11	5A – Breakfast around the world.	Present simple (+ / –): I, you, we and they. Food and drink vocabulary.	個人
12	5B – A very long flight.	Present simple (?): I, you, we and they. Common verb phrases 1.	個人
13	Practical English: What time is it?	Telling the time.	個人
14	6A – She works for Armani.	Present simple: He, she and it. Jobs and places of work.	個人
15	6B – A day in my life.	Adverbs of Frequency. A typical day.	個人

期末試験	Examination	評価方法	筆記試験 100%

【教科書】	English File Beginner Student's Book & iTutor 4th edition
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
安全管理と感染防止 ※実務経験のある教員の授業科目	星　亜矢子 病院(看護師)25年勤務	星

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

看護の臨床経験を生かして、介護を必要とする方の安全を何より優先すべきことを認識し、介護福祉に従事するすべての職員が安全を最優先に考えてその実践を目指す知識、技術、態度を学習する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①安全な介護を提供することができる ②リスクマネジメントを理解できる ③安全管理・感染防止を実践することができる	考え抜く力 チームで働く力 前に踏み出す力 介護の基本

【履修上の注意】　シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	安全管理を学ぶ意義	介護における事故をとおして安全を考える ハインリッヒの法則，介護の事故防止	個人
2	介護の質(1)	介護の質とは，介護の質の評価，インフォームドコンセントと自己決定，	個人
3	介護の質(2)	個人情報保護法と介護における個人情報の取り扱いについて理解できる。防げる事故・防ぐべき事故	個人
4	介護の質(3)	介護過誤について理解できる。高齢者虐待と身体拘束ゼロ (転倒転落　出血　骨折　誤嚥窒息　熱傷　溺水)	個人
5	リスクマネジメント(1)	リスクマネジメントとは，リスクマネジメントのプロセスを学ぶ 職員のルール違反をなくす・安全規則	個人
6	リスクマネジメント(2)	インシデントレポートの目的と意義，分析，活用について情報共有	個人
7	リスクマネジメント(3)	介護福祉士の法的責任について(行政処分，民事責任，刑事責任)を学ぶ	個人
8	介護の環境と感染症	介護を必要とする人と感染症について学ぶ	個人
9	施設内感染対策	施設内感染とは，施設内感染予防対策，スタンダード・プリコ―ションについて理解できる	個人
10	〃	インフルエンザ，MRSA，肺炎　結核　疥癬　等について理解できる	個人
11	〃	食中毒とは，食中毒の原因，ノロウィルス　O157　食中毒について感染拡大しないさせない対処方法について理解できる。(嘔吐物・排泄物の処理)	個人
12	〃	〃	個人
13	居宅介護における感染対策	家族間感染の予防，家庭における衛生管理について考える	個人
14	抵抗力を高める感染対策	病原体から身体を守る対策が理解できる	個人
15	まとめ		

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%	

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座4　介護の基本Ⅱ
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
介護論Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目	相楽　愛美 特別養護老人ホーム等（介護福祉士）7年勤務	相楽

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解します。
介護福祉の専門職としての能力と態度を養うため、理念及び倫理と専門性について学びます。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①介護の理念・倫理を説明できる ②介護福祉士の役割を説明できる ③多職種と連携を図る必要性を説明できる	コミュニケーションスキル 論理的思考力 知識・理解 介護の基本

【履修上の注意】　主体的に授業に参加しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	介護論を学ぶ意義、目的を理解する	個人
2	介護の概念	介護の歴史から専門職としての介護福祉士の成り立ちを理解する 求められる介護福祉士像、介護人材の確保対策・役割を理解する	個人
3	介護の概念	社会福祉士及び介護福祉士法の概要を理解する 介護福祉士が守るべき義務規定の意味を理解する	個人
4	介護の概念	職能団体や養成施設協会の働きを理解する 生涯研修や各学会の活動について理解する	個人
5	介護の概念	介護福祉士の理念を理解する 日本介護福祉士倫理綱領を理解する	個人
6	介護を必要とする人との援助関係	暮らしを支援する介護について理解する 他者の尊厳を護り支援できる介護福祉士について理解する	グループ
7	介護を必要とする人との援助関係	自立と自律について学ぶ 自立を支える介護の自己決定や利用者主体について理解する	グループ
8	介護を必要とする人との援助関係	ICFにおける生活機能と各因子との相互作用について理解する	グループ
9	介護を必要とする人との援助関係	ICFやストレングスの視点を介護の実践に応用する視点を 身につける	グループ
10	介護援助の方法	援助関係を築く基本技術を理解する 傾聴能力・共感的態度を身につける	グループ
11	介護にかかわる連携	多職種連携の意義と目的を理解する 自立に向けた介護福祉のあり方を理解する	個人
12	介護にかかわる連携	多職種連携の意義と目的を理解する バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解する	グループ
13	介護にかかわる連携	自立支援と介護予防の基本的な考え方を理解する 介護予防の介護福祉士の役割について理解する	個人
14	介護福祉士の健康と安全	健康管理の意義と方法について理解する 介護従事者の健康問題と労働環境について理解する	個人
15	まとめ	介護論Ⅰのまとめ	個人

期末試験	レポート	評価方法	受講態度　60% レポート　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座3　介護の基本Ⅰ　最新　介護福祉養成講座4　介護の基本Ⅱ
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
介護論Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目	相楽　愛美 特別養護老人ホーム等（介護福祉士）7年勤務	相楽

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解します。
フォーマル・インフォーマルな支援、地域連携、多職種協働の介護の必要性を学び理解を深めます。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①介護福祉の意義について理解できる ②介護福祉士のサービスについて理解できる ③多職種協働の多職種の専門性や役割を理解し介護を実践できる能力と態度を身につける	コミュニケーションスキル 論理的思考力 知識・理解 介護の基本

【履修上の注意】　主体的に授業に参加しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	介護論を学ぶ意義、目的を理解する	個人
2	介護福祉を必要とする人の理解	介護福祉を必要とする人の人生の背景を調べる 人の生活について考え、理解する	個人・グループ
3	介護福祉を必要とする人の理解	介護福祉を必要とする人の人生背景を理解する 地域特性、人の生活について考え、理解する	個人・グループ
4	介護福祉を必要とする人の暮らし	介護福祉を必要とする人の多様性を理解する 介護福祉職のかかわる高齢者の事例を学ぶ	個人・グループ
5	介護福祉を必要とする人の暮らし	介護福祉を必要とする人の多様性を理解する 介護福祉職のかかわる障害者の事例を学ぶ	個人・グループ
6	フォーマルサービスの提供の場の適正 (高齢者)	高齢者のサービスの種類やを知り意義や目的を理解する 各サービスの内容や特徴を知り介護福祉士の役割を理解する	グループ
7	フォーマルサービスの提供の場の適正 (障害者)	障害者のサービスの種類を知り意義や目的を理解する 各サービスの内容や特徴を知り介護福祉士の役割を理解する	グループ
8	地域連携 インフォーマルサービス	地域連携の意義と目的について学び、介護福祉を必要とする人の 生活を支える仕組みを理解する	個人
9	福祉の理念	社会福祉・介護福祉の思想・考え方について理解する 人権・差別・生きるについて考える	グループ
10	福祉の理念	社会福祉・介護福祉の思想・考え方について理解する 人権・差別・生きるについて考える	グループ
11	高齢者の尊厳の保持と自立支援	高齢者の尊厳の保持・自立支援について考え、理解する	個人
12	多職種連携・協働の必要性	多職種連携・協働の目的と効果について理解する 多職種の機能と役割を理解する	グループ
13	多職種連携・協働の実際	多職種連携・協働の目的と効果について理解する 自立支援介護における多職種連携の実際を理解する	個人
14	福祉とは	人権保障と福祉・介護について考え、理解する	個人
15	まとめ	介護論Ⅱのまとめ	個人

期末試験	レポート	評価方法	受講態度　60% レポート　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座3　介護の基本Ⅰ　最新　介護福祉養成講座4　介護の基本Ⅱ
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
対象理解 ※実務経験のある教員の授業科目	相楽　愛美 特別養護老人ホーム等（介護福祉士）7年勤務	相楽

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

介護保険制度の改革・医療保険制度の改革にともない介護の対象は、高齢者から身体障害者・精神障害者・知的障害者・認知症の方・終末期にある方など多様になっている。介護を必要とする方に適切なサービスを提供できる基本は対象を適切に理解することにある。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①介護を個人・家族・地域の視点から介護の役割を説明できる ②高齢者や障害を持って生活する対象を理解する ③介護が必要となる方の特性を理解し適切にサービスを選択できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 介護の基本

【履修上の注意】　主体的に授業に参加しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	対象理解を学ぶ意義	介護を必要とする人への援助を理解する	個人
2	介護の対象	介護の対象に係る規定を理解する	個人
3	介護の対象	ICFの考え方を理解する	個人
4	日常生活から見た対象理解	日常生活、介護を必要とする人の生活を理解する	個人
5	日常生活から見た対象理解	介護を必要とする人の生活と介護支援レベルを理解する	個人
6	日常生活から見た対象理解	文化・個別性・多様性を理解する	個人
7	日常生活から見た対象理解	高齢者・障害者と生活障害を理解する	個人
8	健康を維持する側面から	健康の意義・加齢を理解する	個人
9	健康を維持する側面から	高齢者の身体的・心理的・社会的特性を理解する	個人
10	健康を維持する側面から 介護を必要とする人の理解	高齢者の主な疾患と生活障害を理解する	個人
11	健康を維持する側面から 介護を必要とする人の理解	障害者の身体的・心理的・社会的特性を理解する	個人
12	動物介在療法の基礎理解と介護現場での活用	高齢者・障害者に対する心理的・身体的効果の学習	個人
13	生活支援における動物介在療法の役割	安全管理・衛生管理・倫理的配慮の理解	個人
14	介護を必要とする人が生活する場	施設に生活する介護を必要とする人・地域で生活する介護を必要とする人を理解する	個人
15	まとめ		

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%	

【教科書】	随時提示する
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
ボディメカニクス ※実務経験のある教員の授業科目	窪木　守 特別養護老人ホーム（介護福祉士）14年勤務	窪木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

介護の基本となる、「介護を必要とする方の自立を促すことができる介護」を提供するための基礎を学ぶ。「介護従事者の安全」を護り、「安全な介護」を提供できるからだの使い方を身につける。また、日常生活における人間の自然な動きを理解し、姿勢・安全な動作を身につけ、臨床経験をもとにした自立に向けて安全な介護を実践するための基礎を習得する。

【学習目標（到達目標）】

①「自立に向けた介護」を提供できるため、「寝返る・起きる・座る・立つ・歩く」 などの人間の自然な動作を説明できる
②介護従事者が安全な介護を提供できるために必要なボディメカニクスを活用できる
③安全に生活できるために、介護を必要とする方の「よい姿勢と動作の関係」を説明できる

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力
生活支援技術

【履修上の注意】　主体的に授業に参加しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	イントロダクション	ボディメカニクスを学ぶ意義、目的を理解する 学習する上でのルール、注意事項を理解する	個人
2	ボディメカニクス8原則	介護従事者と介護を必要とする方、相互におけるボディメカニクスの重要性を理解する 介護従事者が安全に介護を提供するための、ボディメカニクスの8原則を理解する	個人
3	介護従事者のボディメカニクス	介護従事者が安全に介護を提供するための、ボディメカニクスの8原則を理解する ベッドメイキングの技法を通して、介護従事者が安全に介護ができるからだの使い方を理解する	個人
4	介護従事者のボディメカニクス	介護従事者が安全に介護を提供するための、ボディメカニクスの8原則を理解する ベッドメイキングの技法を通して、介護従事者が安全に介護ができるからだの使い方を理解する	個人
5	自立支援とボディメカニクス	介護従事者と介護を必要とする方、相互におけるボディメカニクスの重要性を理解する 介護を提供する際の安全とは、自立支援とは、を学び、ボディメカニクスの重要性を理解する	個人
6	安全な姿勢とは	介護を必要とする方の「臥位・座位・立位」における安全な姿勢（支持基底面と重心の関係）を理解する 「臥位・座位・立位」における、安全と支持基底面と重心の関係について理解する	個人
7	自立に向けた介護の技法「寝返る」	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「寝返る」を理解する 「寝返り」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な寝返りの動きを理解する	個人
8	自立に向けた介護の技法「寝返る」	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「寝返る」を理解する 「寝返り」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な寝返りの動きを理解する	個人
9	自立に向けた介護の技法「起きる」	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「起きる」を理解する 「起き上がり」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な起き上がりの動作を理解する	個人
10	自立に向けた介護の技法「起きる」	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「起きる」を理解する 「起き上がり」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な起き上がりの動作を理解する	個人
11	自立に向けた介護の技法「立つ・座る」 （介護ロボットの体験）	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「立つ・座る」を理解する 「立つ・座る」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な立つ動作・座る動作を理解する	個人
12	自立に向けた介護の技法「立つ・座る」 （介護ロボットの体験）	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「立つ・座る」を理解する 「立つ・座る」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な立つ動作・座る動作を理解する	個人
13	自立に向けた介護の技法「歩く」	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「歩く」を理解する 「歩く」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な歩行を理解する	個人
14	自立に向けた介護の技法「歩く」	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「歩く」を理解する 「歩く」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な歩行を理解する	個人
15	まとめ		

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ、最新　介護福祉士養成講座7　生活支援技術Ⅱ
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう(実技練習)

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
コミュニケーション技術 ※実務経験のある教員の授業科目	佐々木　謙太朗 通所介護等（介護福祉士）7年勤務	佐々木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

介護を必要とする方へのアプローチの方法や技術を理解し実践できるようにする。
対人援助職として必要不可欠な技術を身につける。グループワーク等を展開する。

【学習目標（到達目標）】
①関係づくりについて理解できる
②介護におけるコミュニケーションの基本を習得できる
③社会とコミュニケーションの意味について考察できる

【受講して得られる力】
前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力
介護の基本

【履修上の注意】　積極的に発言しましょう。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの定義と働きについて理解する	個人
2	コミュニケーション技術①	価値観の比較と受容の意味について理解する	個人
3	コミュニケーション技術②	事例検討から受容の実践について理解する	個人
4	コミュニケーション技術③	事例検討から受容の実践について理解する	個人
5	コミュニケーション技術④	事例検討から共感の実践について理解する	個人
6	コミュニケーション技術⑤	事例検討から共感の実践について理解する	個人
7	コミュニケーション技術⑥	客観的な自分について考察する	個人
8	コミュニケーション技術⑦	客観的な自分について考察する	個人
9	コミュニケーション技術の実践①	リフレーミングで思考の変換ができる	グループ
10	コミュニケーション技術の実践②	内発的動機づけと外発的動機づけを理解する	個人
11	コミュニケーション技術の実践③	質問力を磨く ロールプレイを実践する	ペア
12	コミュニケーション技術の実践④	多職種との連携・協働・統合	個人
13	コミュニケーション技術の実践⑤	書く技術、話す技術のまとめ　記録と報告を実践する	個人
14	コミュニケーション技術の実践⑥	書く技術、話す技術のまとめ　記録と報告を実践する	個人
15	まとめ		

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%	

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座5　コミュニケーション技術
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
対人援助技術 ※実務経験のある教員の授業科目	相楽　愛美 特別養護老人ホーム等（介護福祉士）7年勤務	相楽

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

介護支援専門員の経験から、介護を必要とする方に応じた、またその家族とのコミュニケーションの方法論を展開する。チームコミュニケーションについて理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①障害に応じたコミュニケーションの方法を理解できる ②多職種協働におけるコミュニケーションのあり方について理解できる ③チームケアについて理解できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 コミュニケーション技術

【履修上の注意】　シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	対人援助技術を学ぶ意義・目的について理解する	個人
2	失語症の方とのコミュニケーション	失語症の方とのコミュニケーションについて理解する	個人
3	構音障害の方とのコミュニケーション	構音障害の方とのコミュニケーションについて理解する	個人
4	視覚障害の方とのコミュニケーション①	視覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する①	個人
5	視覚障害の方とのコミュニケーション②	視覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する②	個人
6	視覚障害の方とのコミュニケーション③	視覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する③	個人
7	聴覚障害の方とのコミュニケーション	聴覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する①	個人
8	聴覚障害の方とのコミュニケーション	聴覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する②	個人
9	聴覚障害の方とのコミュニケーション	聴覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する③	個人
10	知的障害の方とのコミュニケーション	知的障害の方とのコミュニケーションについて理解する	個人
11	精神障害の方とのコミュニケーション	精神障害の方とのコミュニケーションについて理解する	個人
12	チームでのコミュニケーション①	チームでのコミュニケーションの意義と目的について理解する①	個人
13	チームでのコミュニケーション②	チームでのコミュニケーションの意義と目的について理解する②	個人
14	チームでのコミュニケーション③	チームでのコミュニケーションの意義と目的について理解する③	個人
15	まとめ		

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%	

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座5　コミュニケーション技術
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
介護基礎技術Ⅰ(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目	窪木　守 特別養護老人ホーム(介護福祉士)14年勤務	窪木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

介護を必要とする方に安全に、安心した介護を受けていただけるために、基本的な介護技術を習得します。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①介護技術の基本となるボディメカニクスを活用した技術を習得することができる ②モデル体験から介護を必要とする方を理解し、そこから介護を必要とする方の自立、自律や尊重を考えることができる ③人間の自然な動きを理解し、寝る、座る、起きる、立つ動作の基本的な介護技術を理解することができる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術

【履修上の注意】　主体的に授業に参加しましょう

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション①	介護基礎技術を学ぶ意義、目的を理解する 介護技術の意義、目的を知り、学ぶ上でのルール、注意事項を理解する	個人
2	観察・アセスメント	介護における観察とアセスメントの視点について理解する 健康状態の観察、知的、心理的状態の観察とアセスメントについて理解する	個人
3	観察・アセスメント	介護における観察とアセスメントの視点について理解する 健康状態の観察、社会的側面の観察とアセスメントについて理解する	個人
4	居住環境整備	自立に向けた環境の整備について理解する 居住環境整備の意義と目的について理解する	個人
5	オリエンテーション②	実習室使用にあたっての注意事項について理解する 心構え、身だしなみの重要性について理解する	個人
6	ベッドメイキングの技法	ベッドメイキングの技法について理解する 心構え、身だしなみの重要性について理解する	個人
7	ベッドメイキングの技法	ベッドメイキングの技法について理解する ボディメカニクスを活用したベッドメイキングの介護技術を理解する	個人
8	ベッドメイキングの技法	ベッドメイキングの技法について理解する ボディメカニクスを活用したベッドメイキングの介護技術を理解する	個人
9	身じたくの介護	自立支援を支える身じたくの介護を理解する 身だしなみ、着替えの意義、衣類・寝具の清潔管理、プライバシー空間について理解する	個人
10	身じたくの介護	自立支援を支える身じたくの介護を理解する	個人
11	身じたくの介護	ボディメカニクスを活用した椅座位姿勢での着替えの介護技術を理解する	個人
12	身じたくの介護	自立支援を支える身じたくの介護を理解する ボディメカニクスを活用した臥位姿勢での着替えの介護技術を理解する	個人
13	食事の介護	自立に向けた食事と環境、手洗いの意義、目的を理解する 食事を楽しむための工夫について理解する	個人
14	食事の介護	自立に向けた食事の介護技術を理解する 手洗いの意義・目的及び介護技術を理解する	個人
15	食事の介護	自立に向けた食事の介護技術を理解する	個人

期末試験	実技試験	評価方法	授業への貢献　60% 実技試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ、最新　介護福祉士養成講座7　生活支援技術Ⅱ
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　実技練習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
介護基礎技術Ⅰ(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目	窪木　守 特別養護老人ホーム(介護福祉士)14年勤務	窪木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

介護の基本となる、「介護を必要とする方の自立を促すことができる介護」を提供するための基礎を学びます。ボディメカニクスでは「介護従事者の安全」を護り、「安全な介護」を提供できるからだの使い方を身につけます。また、日常生活における人間の自然な動きを理解し、姿勢・安全な動作を身につけ、自立に向けて安全な介護を実践するための基礎を習得します。

【学習目標(到達目標)】

①「自立に向けた介護」を提供できるため、「寝返る・起きる・座る・立つ・歩く」などの人間の自然な動作を説明できる
②介護従事者が安全な介護を提供できるために必要なボディメカニクスを活用できる
③安全に生活できるために、介護を必要とする方の「よい姿勢と動作の関係」を説明できる

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力
生活支援技術

【履修上の注意】　主体的に授業に参加しましょう

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	食事の介護	自立に向けた食事の介護技術を理解する 臥位姿勢での安全、安楽な食事介護技術を理解する	個人
2	食事の介護	自立に向けた食事の介護技術を理解する 口腔ケアの意義目的及び介護技術を理解する	個人
3	車椅子への移乗介助の技法	移動の技法について理解する ボディメカニクス、人間の自然な動きを活用した移乗の介護技術を理解する	個人
4	車椅子への移乗介助の技法	移動の技法について理解する ボディメカニクス、人間の自然な動きを活用した移乗の介護技術を理解する	個人
5	車椅子の操作	移動の技法、車椅子を押す際の介護について理解する ボディメカニクスを活用した車椅子を押す際の介護技術を理解する(平地、段差、坂道)	個人
6	車椅子の操作	移動の技法、車椅子を押す際の介護について理解する ボディメカニクスを活用した車椅子を押す際の介護技術を理解する(平地、段差、坂道)	個人
7	車椅子の操作	移動の技法、車椅子を押す際の介護について理解する ボディメカニクスを活用した車椅子を押す際の介護技術を理解する(平地、段差、坂道)	個人
8	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する 排泄とは、排泄の意義、排泄のアセスメント、観察方法、排泄の手段について理解する	個人
9	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクスを活用したポータブルトイレを使用した排泄の介護技術を理解する	個人
10	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクスを活用したポータブルトイレを使用した排泄の介護技術を理解する	個人
11	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクスを活用したポータブルトイレを使用した排泄の介護技術を理解する	個人
12	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクス「てこの原理」を活用した尿器、便器での排泄の介護技術を理解する	個人
13	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクス「てこの原理」を活用した尿器、便器での排泄の介護技術を理解する	個人
14	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクス「てこの原理」を活用した尿器、便器での排泄の介護技術を理解する	個人
15	まとめ		

期末試験	実技試験	評価方法	授業への貢献　60% 実技試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ、最新　介護福祉士養成講座7　生活支援技術Ⅱ
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　実技練習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
介護基礎技術Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目	佐々木　謙太朗 通所介護等（介護福祉士）7年勤務	佐々木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

介護を必要とする方に安全に、安心した介護を受けていただけるために、基本的な介護技術を習得します。

【学習目標（到達目標）】

①介護技術の基本となるボディメカニクスを活用した技術を習得することができる
②モデル体験から介護を必要とする方を理解できる
③介護を必要とする方の自立、自律や尊重を考えることができる

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力
生活支援技術
心身機能と構造の理解

【履修上の注意】　主体的に授業に参加しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	排泄の介助（講義・演習）	ボディメカニクスを活用したおむつ交換の介護技術を理解する	個人・グループ
2	排泄の介助（演習）	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクスを活用したおむつ交換の介護技術を理解する	グループ
3	入浴介護(講義)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について理解する	個人
4	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 全身清拭、ベッド上での洗髪、特殊浴槽、家庭浴槽の入浴の介護技術を理解する	グループ
5	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 全身清拭、ベッド上での洗髪、特殊浴槽、家庭浴槽の入浴の介護技術を理解する	グループ
6	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について理解する	グループ
7	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 全身清拭、ベッド上での洗髪、特殊浴槽、家庭浴槽の入浴の介護技術を理解する	グループ
8	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について理解する	グループ
9	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 全身清拭、ベッド上での洗髪、特殊浴槽、家庭浴槽の入浴の介護技術を理解する	グループ
10	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について理解する	グループ
11	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について理解する	グループ
12	睡眠の介護(講義)	自立に向けた睡眠の意義・目的を理解する 睡眠に関するアセスメントを理解する	個人
13	睡眠の介護(講義・演習)	自立に向けた睡眠の意義・目的を理解する 安眠を促す介護技術を理解する	個人・グループ
14	総括	介護基礎技術を振り返る	個人
15	まとめ		

期末試験	実技試験	評価方法	授業への貢献　60% 実技試験　40%	

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ、7　生活支援技術Ⅱ、8　生活支援技術Ⅲ
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　実技練習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
家政学	辻　匡子 一般	星

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

日本人の健康と栄養状況は生活水準と医療の向上により、年々高くなっている。一方では、日常生活の不摂生、不規則な食生活及び運動不足などによって生活習慣病が増えている。よって、栄養素が体内で利用される過程を理解し、栄養と健康の知識を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①健康について説明できる ②栄養について説明できる ③介護福祉士に必要な知識を修得できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術

【履修上の注意】　シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	生活と食事	家庭生活と食事について理解する 社会の変動と食生活について理解する	個人
2	身体の機能と栄養	三大栄養素の働きについて理解する	個人
3	身体の機能と栄養	微量栄養の働きについて理解する	個人
4	身体の機能と栄養	日本人の食事摂取基準について理解する	個人
5	身体の機能と栄養	日本人の食事摂取基準について理解する	個人
6	身体の機能と栄養	消化吸収について理解する	個人
7	食生活と健康	健康の概念と健康づくりを理解する	個人
8	食生活と健康	日本人の食生活の変化と疾病を理解する	個人
9	食生活と健康	日本人の食生活の変化と疾病を理解する	個人
10	食生活と健康	日本人の健康状態について理解する	個人
11	食生活と健康	ストレスと栄養について理解する	個人
12	高齢者の食生活	高齢者の食事と栄養について理解する	個人
13	障害者の食生活	障害者の食事と栄養について理解する	個人
14	まとめ	主な復習と資格試験に向けての対策を実施する	個人
15	まとめ		個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%	

【教科書】	栄養と調理技能検定　公式ガイド3級、食品解説つき八訂準拠ビジュアル食品成分表2026、 生活支援の基礎を学ぶ　介護・福祉・看護実践のための家政学
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　普段から「家事」に取り組みましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
家政学演習	辻　匡子 一般	星

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

食生活の基本となる栄養・食材・調理について、正しい知識をもって、高齢者・障がい者それぞれに見合った適正な食事介護ができる介護福祉士としての能力を養う。

【学習目標(到達目標)】

①食に関する様々な技能を修得できる
②高齢者や障がい者の食生活支援を修得できる
③基本的な調理技術を身につけ、材料の扱い方、盛り付け、味加減などの工夫ができる

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力
生活支援技術

【履修上の注意】　シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	食事に配慮	食材・調理法の配慮について理解する	個人
2	主菜に煮物	煮物を主菜に献立を立てる 献立に基づいて調理をし，試食・感想を述べる	個人
3	主菜に蒸し物	蒸し物を主菜に献立を立てる	個人
4	主菜に蒸し物	調理をし，試食・感想を述べる	個人
5	全粥食①	全粥に適した食材・調理法を選び献立を立てる	個人
6	全粥食①	献立に基づいて調理をし，試食・感想を述べる	個人
7	全粥食②	全粥に適した食材・調理法を選び献立を立てる	個人
8	全粥食②	献立に基づいて調理をし，試食・感想を述べる	個人
9	刻み食①	食材に合った切り方を工夫する	個人
10	刻み食①	献立に基づいて調理をし，試食・感想を述べる	個人
11	刻み食②	食材に合った切り方を工夫する	個人
12	刻み食②	献立に基づいて調理をし，試食・感想を述べる	個人
13	ミキサー食①	ミキサー食に適した献立を立てる	個人
14	ミキサー食①	献立に基づいて調理をし，試食・感想を述べる	個人
15	まとめ	実技のまとめ	個人

期末試験	実技試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	栄養と調理技能検定　公式ガイド3級、食品解説つき八訂準拠ビジュアル食品成分表2026、 生活支援の基礎を学ぶ　介護・福祉・看護実践のための家政学
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　普段から「家事」に取り組みましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
レクリエーション支援技術Ⅰ	七海　多美子 一般	佐藤(篤)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

レクリエーションの基礎理論から援助の実際を学ぶ。講義・実技の形式で行う。

【学習目標(到達目標)】
①レクリエーションの基礎理論から援助の実際を修得できる
②グループ学習を通じてレクリエーション活動を理解できる
③アイスブレーキングの手法を理解できる

【受講して得られる力】
前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力
生活支援技術

【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	レクリエーションの概念	レクリエーションの意義を理解する	個人
2		レクリエーション支援の目的とは 心を元気にするとは何かを理解する	個人
3		支援者の原則	個人
4	楽しさと心の元気づくりの理論	レクリエーション活動からもたらされる楽しさを感じさせる心の仕組み フロー理論を理解する	個人
5		マズローの欲求段階説を通した良いコミュニケーションとは	個人
6		レクリエーション活動を心の元気づくりに活かす2つの視点 対象者の心の元気づくりの課題について理解する	個人
7		ライフステージごとの心の元気づくり	個人
8		高齢社会の課題とレクリエーション 介護予防とレクリエーションの重要性を理解する	個人
9		信頼関係づくりの方法　ホスピタリティとは レクリエーションにおけるホスピタリティを理解する	個人
10		対象者と良好なコミュニケーションをとるための 技法を理解する	個人
11		良好な集団づくりの方法　アイスブレーキングの意義 アイスブレーキングの基本技術	個人
12		アイスブレーキングモデル 段階をおってコミュニケーションを促進するための活動の進め方	個人
13		アイスブレーキングのプログラムを立案する	個人
14		アイスブレーキングの効果を高める支援技術を習得する	個人
15		アイスブレーキングの効果を高める支援技術を習得する	個人

期末試験	評価方法	
筆記試験	授業への貢献	60%
	筆記試験	40%

【教科書】	楽しさをとおした心の元気づくり　～レクリエーション支援の理論と方法～
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
レクリエーション支援技術Ⅱ	七海　多美子 一般	佐藤(篤)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

良好な関係を築くための方法や対象者にあわせたレクリエーション支援方法を理解する。講義・実技の形式で行う。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①レクリエーションの目的(心を元気にする)達成のためのレクリエーション支援の方法を理解できる ②レクリエーションの展開方法を理解できる ③対象者に合わせたアレンジ技術を修得できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術

【履修上の注意】　シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	レクリエーション支援の理論	信頼関係づくりの理論 レクリエーション支援におけるコミュニケーション	個人
2		良好な集団づくりの理論 集団内のコミュニケーションの促進法を理解	個人
3		自主的、主体的に楽しむ力を育む理論 2つの要素からやる気を引き出す技術を習得	個人
4	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション 活動の展開方法を理解する	個人
5		アレンジの展開方法を理解する 活動分析とは	個人
6		段階的アレンジの応用 上付け方式	個人・グループ
7		段階的アレンジの応用 分割方式	個人・グループ
8		段階的アレンジの応用 実践	個人・グループ
9		モデル・プログラムの習得 A-PIEプロセス	個人・グループ
10		モデル・プログラムの習得 A-PIEプロセス	個人・グループ
11		プログラム立案 立案方法を理解する	個人
12	レクリエーション支援の演習	プログラム支援の実施 立案方法を理解する	個人・グループ
13		プログラム支援の実施 プログラムを用いたレクリエーション支援を試行する	個人・グループ
14		歌のリードの基本技術を理解 基本技術を習得する	個人・グループ
15		歌のリードの基本技術を理解 基本技術を習得する	個人・グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%	

【教科書】	楽しさをとおした心の元気づくり　～レクリエーション支援の理論と方法～
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
介護過程理論 ※実務経験のある教員の授業科目	窪木　守 特別養護老人ホーム（介護福祉士）14年勤務	窪木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

介護過程理論をなぜ学ぶのか、学ぶ必要性とその意義について介護福祉士の観点から考えていきます。介護を必要としているその人を理解するために必要とする情報とは何か。介護実践者として人間理解につながるよう具体的な事例を通して学びを深めます。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①介護過程とはなにか、介護過程の展開方法を理解できる ②介護過程におけるアセスメントを理解し、情報の収集、分析の方法が理解できる ③「ニーズ」とは何かを理解でき、全体的な目標、各課題ごとの達成目標を立てることができる ④介護計画の立案の方法を理解できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 介護過程

【履修上の注意】　主体的に授業に参加しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	介護過程を学ぶ意義と目的①	介護実践における介護過程とは何か 日常生活に活かせる介護過程①	個人
2	介護過程を学ぶ意義と目的②	介護実践における介護過程とは何か 日常生活に活かせる介護過程②	個人
3	情報収集	日常生活と介護過程　情報を集めるために 個人ワーク　グループワーク	個人・グループ
4	情報収集	介護福祉士の情報収集とは　人間理解の視点にたって 発表(意見を出し合う)	個人
5	事例から考える(1)	課題の抽出　問題解決思考 グループワーク	グループ
6	事例から考える(2)	課題の抽出　問題解決思考 事例発表	個人
7	情報の解釈・関連付け・統合化（1）	情報収集から何をどうしていくか　介護過程の基礎的理解 解釈とは　関連付けとは　統合化するとは	個人
8	情報の解釈・関連付け・統合化（2）	事例から　生活理解　人間理解の視点にたって 個人ワーク　グループワーク	個人・グループ
9	課題を導き出す（1）	ニーズとは何か ニーズを導き出す根拠とは	個人
10	課題を導き出す（2）	介護計画の立案(作成) 同一事例に取り組む　導き出した根拠や考え方を発表し合う	個人
11	ICFと介護過程（1）	ICFとは何か グループワーク	グループ
12	ICFと介護過程（2）	ICFと全体性について 情報の関連付けを理解する	個人
13	事例から考える（3）	確認試験 事例を考える	個人
14	事例から考える（4）	確認試験 事例を考える　事例発表	個人
15	まとめ		個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%	

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　実践に臨む準備をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
運動機能障害者の介護過程 ※実務経験のある教員の授業科目	相楽　愛美 特別養護老人ホーム等（介護福祉士）7年勤務	相楽

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

運動機能障害の原因・症状・生活上の諸問題、原因となる疾患を理解すると共に、運動機能障害をもった方に対する介護過程の展開方法を学習します。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①運動機能障害を起こす原因となる疾患を理解できる ②運動機能障害が、どのような身体的・精神的影響を与えるかを理解し、障害を負った方へ個々に合わせた介護技術を学ぶことができる ③運動機能障害をもった方の生活を理解し、介護福祉士の視点をもって介護過程を展開できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術

【履修上の注意】	主体的に授業に参加しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	肢体不自由に応じた介護	肢体不自由とは、肢体不自由について医学的・心理的側面から理解する	個人
2	脊髄損傷に応じた介護	脊髄損傷に応じた介護を理解する	個人
3		脊髄損傷の生活上の困りごと、生活支援について理解する	個人
4	脳性麻痺に応じた介護	脳性麻痺に応じた介護を理解する	個人
5		脳性麻痺の生活上の困りごと、生活支援について理解する	個人
6	脳血管障害に応じた介護	脳血管障害に応じた介護を理解する	個人
7		脳血管障害の生活上の困りごと、生活支援について理解する	個人
8	高次脳機能障害者の介護	高次脳機能障害者の介護を理解できる	個人
9	知的障害者の介護	知的障害者の定義，障害の特性に応じた支援が理解できる	個人
10	精神障害者の介護	精神障害のある人の介護を理解できる	個人
11		精神障害のある人の生活の障害の特徴	個人
12	発達障害者の介護	発達障害のある人の介護を理解できる	個人
13	重症心身障害者の介護	重症心身障害のある人の介護を理解できる	個人
14	運動機能障害者の介護過程	肢体不自由(運動機能障害)者の介護過程が展開できる	個人
15	まとめ		個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%	

【教科書】	担当教員が指示します
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
総合演習Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目	佐々木　謙太朗 通所介護等（介護福祉士）7年勤務	佐々木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

介護実習への導入が円滑に行え、実習で効果的な学びができるために必要な知識、技術、態度について学び、身につける。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①介護実習の意義を説明できる ②利用者がどのような生活をどのような場所で送っているのか理解できる ③介護職員の役割・職員間の連携・施設の果たす役割を理解できる ④実習に主体的な取り組みができるような姿勢を身に着けることができる	生活支援技術 コミュニケーション技術 考え抜く力 チームで働く力

【履修上の注意】　実習要項を熟読し実習の流れを理解する

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	介護実習と総合演習の関係性を知る シラバスについて理解する	個人・ペア・グループ
2	介護実習の意義について	介護実習時の心構えや目的、ねらいを知る 実習時の心構えや、実習の目的・ねらいを理解する	個人・ペア・グループ
3	実習Ⅰ-1について	介護実習時の心構えを知る 実習要項により実習の目的・ねらいを理解する	個人
4	介護実習の施設について	介護実習における施設について学ぶ 施設介護実習の必要性を理解し、実習の意味と重要性を理解する	個人・ペア・グループ
5	介護実習の施設について	介護実習における施設について学ぶ 施設介護実習における施設の種類とサービス内容を理解できる	個人・ペア・グループ
6	報告・連絡・相談・確認	報告・連絡・相談・確認の重要性について学ぶ	個人・ペア・グループ
7	実習の目標設定と実習に必要な書類について	実習の目標の立て方、実習に必要な書類を知り、準備を行う 目標設定の方法、実習に必要な事前書類を理解・準備ができる。	個人・グループ
8	実習記録について	実習記録の意義・重要性を知るとともに記入方法とその留意点を学ぶ 実習ノートの使い方、書き込み手順を事例をもとに記入できる	個人・グループ
9	コミュニケーション	実習時におけるかかわりについて振り返る 対象理解のための信頼関係の築き方について学ぶ	個人・ペア・グループ
10	プロセスレコード	実習計画・指導計画に基づいた学習をする プロセスレコードについてスーパービジョンを受ける	個人・ペア・グループ
11	プロセスレコード	実習計画・指導計画に基づいた学習をする プロセスレコードについてスーパービジョンを受ける	個人・ペア・グループ
12	介護福祉士の役割について	介護福祉士の役割を知る 社会福祉の分野で働く専門職員の役割について理解する	個人・ペア・グループ
13	実習反省会・自己評価	実習自己評価、振り返りの実施。礼状の記入方法について 礼状の記入方法を学び、礼状を書くことができる	個人・ペア・グループ
14	実習反省会・自己評価	自己評価、実習の振り返り（レポート）を行うことで自己課題を見つけることができる	個人・ペア・グループ
15	まとめ	プロセスレコードの振り返りを行い、自己課題と観察記録の記入方法が理解できる	個人・ペア・グループ

期末試験	評価方法		
レポート		受講態度	20%
		レポート	80%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程、最新　介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習
【参考書】	実習要項

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	実習へ臨む準備（予習・復習）

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
総合演習Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目	佐々木　謙太朗 通所介護等（介護福祉士）7年勤務	佐々木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

実習Ⅰ-1を振り返り、学校生活で学んだ知識･技術･態度･倫理を介護実習施設で体験する。介護を必要とされる方とのかかわりをとおして生活の場と個別性を理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①利用者の生活･介護職員の役割･職員間の連携･施設の果たす役割を説明できる ②介護実習の意義を理解し、実習に主体的な取り組みができるような態勢をつくることができる ③実習の事前･実習中･事後において教員や施設職員からスーパービジョン（指導･助言）をうける重要性を認識できる	生活支援技術 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力

【履修上の注意】　実習要項を熟読し実習の流れを理解する

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容･目標（使用教材等）	授業方法
1	介護実習の意義と目的について	介護実習の意義と目的。介護実習計画を知る 介護実習の意義と目的を知り、実習計画を理解できる	個人･ペア･グループ
2	実習Ⅰ－2の実習について	介護実習時の心構えを知る。実習の目的･ねらいを知る 実習時の心構えを理解し、実習の目的･ねらいを理解する	個人･ペア･グループ
3	介護実習の施設について	介護実習における施設について学ぶ 施設介護実習における施設の種類とサービス内容を理解する	個人･ペア･グループ
4	介護福祉士と介護の理解	高齢者福祉 高齢者への福祉サービスの体系と内容について理解できる	個人･グループ
5	実習Ⅰ－2の目的と課題	対象者の生活の全体像を把握し、説明できる。 アセスメントを体験し、介護福祉士の専門性を深めることができる	個人･ペア･グループ
6	実習事前準備	実習事前準備 実習内容の確認と準備物･課題･記録等の最終確認ができる	個人･ペア･グループ
7	介護過程について	介護過程の展開ができる	個人
8	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 情報収集･分析･統合の過程を理解する	個人･ペア･グループ
9	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 情報収集･分析･統合の過程を理解する	個人･ペア･グループ
10	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる まとめた情報から課題の明確化を図る	個人･ペア･グループ
11	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる まとめた情報から課題の明確化を図る	個人･ペア･グループ
12	実習振り返り･自己評価	アセスメント分析と評価ができる	個人･ペア･グループ
13	実習振り返り･自己評価	アセスメントのまとめ	個人･ペア･グループ
14	実習反省会･自己評価	アセスメントの発表と自己課題の明確化ができる	個人･ペア･グループ
15	まとめ	実習自己評価、振り返りの実施ができる	個人

期末試験	レポート	評価方法	課題の達成度　30% レポート　70%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座　9　介護過程、10　介護総合演習･介護実習
【参考書】	実習要項

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	実習へ臨む準備（予習･復習）

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
実習Ⅰ－1 ※実務経験のある教員の授業科目		佐々木　謙太朗 通所介護等（介護福祉士）7年勤務			佐々木
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	40時間	実習	1

【授業の概要・目的】

実習Ⅰ－1では介護を必要とされる方、一人ひとりを理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、介護を必要される方とのコミュニケーションの実践から介護福祉士の役割について理解できる。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①日常生活支援とは何か理解できる ②訪問介護事業所における介護を必要とする方を理解できる ③通所介護事業所における介護を必要とする方を理解できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術

【履修上の注意】	特になし

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	介護実習施設・事業Ⅰに区分される施設、事業所における学外実習 （介護福祉学科教員）	学習の主題： 高齢者・障害者にかかわる施設・事業所について理解し介護を必要とする方の生活を理解する 学習課題： ①施設・事業所の見学、オリエンテーションで説明を受ける ②介護を必要とする方々とコミュニケーションを図る ③実習指導者及び施設職員指導のもと、日常生活支援を見学、一部を体験する	個人又はグループ
2			個人又はグループ
3			個人又はグループ
4			個人又はグループ
5			個人又はグループ
6			個人又はグループ
7			個人又はグループ
8			個人又はグループ
9			個人又はグループ
10			個人又はグループ
11			個人又はグループ
12			個人又はグループ
13			個人又はグループ
14			個人又はグループ
15			個人又はグループ

期末試験		評価方法	課題の達成度　20% 実習評価　80%	

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程、10　介護総合演習・介護実習
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	担当教員より指示があります

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
実習Ⅰ－2 ※実務経験のある教員の授業科目	佐々木　謙太朗 通所介護等（介護福祉士）7年勤務	佐々木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	160時間	実習	4

【授業の概要・目的】

実習Ⅰ－2では介護を必要とする方、個々を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、介護を必要する方、そのコミュニケーションの実践、介護技術の確認し、介護福祉士の役割について理解する実習とする。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①地域における高齢者や障害者の生活を知り、様々な介護を必要とする方の実際を理解できる ②介護を必要とする方、一人ひとりの生活リズムや個別性を理解できる ③介護を必要とする方の生活上のニーズについて理解できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術

【履修上の注意】　特になし

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	介護実習施設・事業Ⅰに区分される施設、事業所における学外実習 （介護福祉学科教員）	学習の主題： ①介護を必要とする方が生活をする場について学ぶ ②様々な場所で生活している介護を必要としている方の生活を理解する ③介護を必要とする方とのかかわりをとおして個別性を知る ④介護を必要とする方が生活している場所での介護職の役割を学ぶ ⑤実習指導者及び施設職員とともに基本的な介護技術を体験する ⑥対象者を選定し日常生活支援等のかかわりをとおして得た情報を整理し全体像を把握できる 学習課題： ①介護を必要とする方の様々な生活を理解する ②実習施設の概要、役割とその地域の特色を理解する ③日常生活支援の年間プログラムについて考察する ④介護を必要とする方とかかわり、個別性を理解する ⑤他者とのかかわりを客観的に考察する	個人又はグループ
2			個人又はグループ
3			個人又はグループ
4			個人又はグループ
5			個人又はグループ
6			個人又はグループ
7			個人又はグループ
8			個人又はグループ
9			個人又はグループ
10			個人又はグループ
11			個人又はグループ
12			個人又はグループ
13			個人又はグループ
14			個人又はグループ
15			個人又はグループ
期末試験		評価方法：課題の達成度 20%、実習評価 80%	

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程、10　介護総合演習・介護実習
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　担当教員より指示があります

【本講義に関しての質問先】　担当教員　　【質問方法】　教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
老年学 ※実務経験のある教員の授業科目	十文字　雄一 病院(理学療法士)10年勤務	星

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

高齢者で介護を必要とする人の理解を深めるため，高齢者の特徴，老化に伴う心身の変化，高齢者に多い疾患について学ぶ.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 老化の特徴について説明できる ② 老化に伴う心身の変化とADLへの影響について説明できる ③ 高齢者における症候の特徴について説明できる ④ 高齢者に多い疾患とその症状について説明できる ⑤ 高齢者に多い疾患の生活上の留意点について説明できる	発達と老化の理解

【履修上の注意】　教科書，配布資料を持参すること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	老年期および高齢者の疾患の特徴	老化と高齢者の特徴を学び，その内容を理解する 老化と高齢者の特徴を説明できる	個人・グループ
2	老化に伴う身体的変化	加齢に伴う身体機能の変化を学び，ADLへの影響を理解する 身体的に低下する機能を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ
3	老化に伴う心理的変化	加齢に伴う心理的な変化を学び，ADLへの影響を理解する 認知面で低下する機能を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ
4	骨格系・筋系の疾患と症状	骨格系・筋系の主な疾患について学ぶ 疾患の特徴を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ
5	脳・神経系の疾患と症状	脳血管疾患とパーキンソン病について学ぶ 疾患の特徴を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ
6	皮膚・感覚系の疾患と症状	目・耳・皮膚の疾患について学ぶ 疾患の特徴を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ
7	循環器系の疾患と症状	高血圧・心疾患・四肢の血流障害について学ぶ 疾患の特徴を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ
8	呼吸器系の疾患と症状	気管支・肺の疾患について学ぶ 疾患の特徴を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ
9	消化器系の疾患と症状	消化器・肝臓の疾患について学ぶ 疾患の特徴を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ
10	腎・泌尿器系の疾患と症状	腎・尿路，前立腺の疾患について学ぶ 疾患の特徴を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ
11	内分泌・代謝系の疾患と症状	糖尿病，脂質異常症，痛風について学ぶ 疾患の特徴を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ
12	歯・口腔の疾患と症状	虫歯，歯周病，ドライマウスについて学ぶ 疾患の特徴を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ
13	悪性新生物と症状	がんについて学ぶ 疾患の特徴を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ
14	感染症と症状	インフルエンザ，感染性胃腸炎について学ぶ 疾患の特徴を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ
15	精神疾患と症状	うつ病，統合失調症について学ぶ 疾患の特徴を挙げ，ADLへの影響について説明できる	個人・グループ

期末試験	実施しない。	評価方法	レポート　20% 小テスト　80%

【教科書】	最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解
【参考書】	特に指定しない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　各授業のテーマについて、①教科書を読んでおく(予習)、②要点をまとめる(復習)

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
高齢者の介護 ※実務経験のある教員の授業科目	相楽　愛美 特別養護老人ホーム等（介護福祉士）7年勤務	相楽

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

高齢者における身体的特徴としての加齢の変化、精神的変化としての社会的・家族的役割を理解するとともに、高齢者の日常生活について展開方法を理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①高齢者のこころとからだの特性を理解することができる ②高齢者の特性に合わせた介護の知識・援助技法を習得できる ③高齢者特有の行動様式に対応する介護のあり方を理解できる ④基礎知識を具体的な事例を通して活用できる	生活支援技術 コミュニケーション技術 考え抜く力 チームで働く力 発達と老化の理解

【履修上の注意】　シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	高齢者の介護について	高齢者の基本的理解 高齢者とは、加齢による変化についての定義を理解する	個人・ペア・グループ
2	高齢者の介護について(演習)	高齢者の基本的理解 高齢者疑似体験：体験をとおして高齢者の身体の特徴を理解する	個人・ペア・グループ
3	高齢者の介護について	高齢者の基本的理解 加齢による身体的変化と対処法を理解する	個人
4	高齢者の介護について	情緒的反応から生ずる介護上の諸問題 情緒的反応の理解をすると共に対応法を理解する	個人・ペア・グループ
5	高齢者の介護について	高齢者への対応 情緒的反応から生ずる介護上の諸問題について理解する	個人
6	高齢者の介護について	高齢者・障害者等の家族の理解 家族形態別にみた生活障害と介護について説明できる	個人
7	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護が必要となる高齢者の要因 介護が必要となる高齢者の要因を理解する	個人・グループ
8	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護が必要となる高齢者の要因 廃用症候群、障害老人の日常生活自立度について理解する	個人・ペア
9	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護が必要とされる方が起こしやすい合併症 介護を必要とされる方の全身の身体への影響を理解する	個人・グループ
10	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護を必要とされる方が起こしやすい合併症 介護を必要とされる方の、精神的影響を理解する	個人
11	介護を必要とする方の高齢者の理解	嚥下障害による食事介助・口腔ケアの方法を理解する 嚥下のメカニズムの理解と口腔衛生の必要性について理解する	個人・ペア・グループ
12	介護を必要とする方の高齢者の理解	嚥下障害による食事介助・口腔ケアの方法を理解する。事例演習：嚥下しやすい食品と嚥下しにくい食品の食事介助の方法を理解する	個人・ペア・グループ
13	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護を必要とされる方の移動 介護を必要とされる方の移動の方法を福祉用具を活用する	個人・ペア・グループ
14	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護を必要とされる方の移動 介護を必要とされる方の移動の方法を福祉用具を活用する	個人・ペア・グループ
15	まとめ	高齢者の介護のまとめ	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度　60% 筆記試験　40%

【教科書】	担当教員が指示します
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
認知症の理解 ※実務経験のある教員の授業科目	星　亜矢子 病院（看護師）25年勤務	星

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

認知症高齢者の方の増加に伴い、介護の役割が増大しています。認知症高齢者の介護を行う基礎である医学的背景及び行動を理解できる基礎知識を習得します。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①認知症高齢者をおかれている現状について理解する ②中核症状・周辺症状(BPSD)について基礎知識を習得する ③大脳の医学的知識から心身に及ぼす影響を理解する ④基礎知識を具体的な事例を通して活用できる	認知症の理解 コミュニケーション技術 考え抜く力 チームで働く力

【履修上の注意】　主体的、対話的に学び合いましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	認知症の定義、基礎知識について理解する 認知症介護の意義及び目的について学ぶ	個人・ペア・グループ
2	認知症のケアと理念	認知症ケアの歴史・理念を理解する 認知症の現状と今後、新オレンジプラン、虐待防止法について学ぶ	個人・ペア・グループ
3	認知症の医学・心理学的背景	大脳のしくみについて説明できる 記憶とコミュニケーションについて理解する	個人
4	認知症の医学・心理学的背景	認知症の中核症状について理解する	個人・グループ
5	認知症の医学・心理学的背景	認知症の周辺症状、BPSDの行動・心理症状について説明できる 認知症の評価尺度(観察法と検査法)について理解する	個人・ペア・グループ
6	認知症の医学・心理学的背景	老化のしくみと脳の変化について理解する 認知症と類似したせん妄、うつ症状について学ぶ	個人
7	認知症の医学・心理学的背景	認知症の原因疾患について理解する 認知症の原因疾患へのかかわりについて学ぶ	個人・グループ
8	認知症の医学・心理学的背景	認知症の治療・治療薬について理解する 認知症の予防、対策について学ぶ	個人・ペア
9	認知症の人の心理的理解	認知症の人の心理を考える 認知症の人の心理的理解(相手の気持ちを体験-ロールプレイング)	個人・ペア・グループ
10	認知症の人の体験の理解	認知症の人の体験について知る どのような介護を必要としているのかについて理解する	個人・ペア・グループ
11	認知症の人の体験の理解	認知症の人の疑似体験 言語だけでなく、非言語で表される表現理解を理解する	個人・ペア・グループ
12	認知症の人の生活理解	認知機能の変化が生活に影響を及ぼす影響について理解する 環境を整えることについて学ぶ	個人
13	認知症の人の生活理解	認知症の症状と環境との関係について理解する 物理的・社会的環境の効果について学ぶ	個人
14	認知症の人の生活理解	生活を構成する要素について理解する 生活課題について学ぶ	個人・グループ
15	まとめ	認知症の理解のまとめ	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度　60% 筆記試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座13　認知症の理解
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
認知症の介護 ※実務経験のある教員の授業科目	星　亜矢子 病院（看護師）25年勤務	星

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

認知症の方が住み慣れた地域で暮らし続けることができる介護を考えてみましょう。なじみの環境や生活と時代背景を理解し、介護関係を築けるかかわりを習得する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①認知症高齢者の介護の原則を説明できる ②認知症高齢者への具体的な支援方法を実践できる ③認知症高齢者の生活環境調整の基本を理解する ④住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域の資源と活用方法を理解する	認知症の理解 コミュニケーション技術 考え抜く力 チームで働く力

【履修上の注意】　主体的、対話的に学び合いましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	認知症の介護を学ぶ意義について理解する かかわりの基本、自己覚知の必要性について理解する	個人・ペア・グループ
2	認知症の人に対する介護	認知症高齢者の人とのコミュニケーション 日常生活活動の観察と感情機能の観察について学ぶ	個人・ペア・グループ
3	認知症の人に対する介護	認知症の人へのかかわり方、情報収集について理解する 認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を活用し学ぶ	個人・ペア・グループ
4	認知症の人に対する介護	コミュニケーションの方法と基本姿勢について理解する コミュニケーションスキル・ロールプレイによる擬似体験	個人・ペア・グループ
5	認知症の人の介護過程	パーソン・センタード・ケアについて 認知症の人の心理的ニーズについて学ぶ	個人・ペア
6	認知症高齢者と介護関係	ユマニチュードについて コミュニケーションの方法と基本姿勢について理解する	個人・ペア・グループ
7	認知症高齢者と介護関係	ユマニチュードについて コミュニケーションの方法と基本姿勢について理解する	個人・グループ
8	認知症高齢者と介護関係	認知症ケアの実践について説明できる	個人・ペア・グループ
9	認知症高齢者と介護関係	地域や家庭でどのようにすれば認知症の人の思いを汲み取れるのか理解する	個人
10	認知症の進行に応じた介護	認知症の進行に応じた身体・心理・行動の変化を理解する 身体・心理・行動の変化に対するかかわりについて説明できる	個人
11	地域におけるサポート体制	地域のサポート体制について理解する 地域におけるサポート体制の実際を学ぶ	個人
12	家族の力を生かす	家族を含めた「地域との協働について」 家族のレスパイトケアとエンパワメントについて理解する	個人・グループ
13	ケアの実際	「その人らしい生活」を実践するアセスメント 事例で学ぶ訪問介護計画書の作り方を理解する	個人
14	ケアの実際	「その人らしい生活」を実践するアセスメント 事例で学ぶ訪問介護計画書の作り方を理解する	個人・グループ
15	まとめ	認知症の介護のまとめ	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度　60% 筆記試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座13　認知症の理解
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
からだの構造と機能Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目	星　亜矢子 病院(看護師)25年勤務	星

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

看護の臨床経験を生かし介護実践の根拠となる人体の構造や機能を学び対象となる人の健康状態や障害の状況を理解して介護を行うための基礎知識を養う

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①人体の諸器官の構造と機能を理解しその主な役割を説明できる ②こころとからだのしくみ，循環，呼吸，移動，身じたく，栄養等の日常生活と関連させることが出来る ③バイタルサインの測定が出来る	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 こころとからだのしくみ

【履修上の注意】　シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	こころとからだのしくみ	こころのしくみを理解する，人間の欲求，自己実現について理解する	個人
2	〃	からだのしくみを理解する，からだの部位の役割，全身の骨格について学ぶ	個人
3	生命を維持するしくみ	心臓の構造，血液の組成と役割について学ぶ	個人
4	〃	肺の構造，呼吸運動と換気，酸素と二酸化炭素の運搬について学ぶ	個人
5	移動に関連するしくみ	骨，関節，筋肉の動き，姿勢の種類について学ぶ	個人
6		移動の目的，身体機能の維持について学ぶ	個人
7		心身の機能低下が移動に及ぼす影響，変化の気づきと対応について学ぶ	個人
8	身じたくに関連するしくみ	眼，爪，毛髪，口腔，舌の構造と機能について学ぶ	個人
9		身じたくの効果，心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響について学ぶ	個人
10		変化の気づきと対応について学ぶ	個人
11	栄養に関連するしくみ	消化と吸収のしくみについて学ぶ	個人
12		心身の機能低下が食事に及ぼす影響について学ぶ	個人
13		変化の気づきと対応について学ぶ	個人
14	生きている徴候	バイタルサインの測定をする	個人
15	まとめ		個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　60% 授業への貢献　40%	

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ、最新　介護福祉士養成講座15　医療的ケア 最新社会福祉士養成講座　最新　精神保健福祉士養成講座　1巻　医学概論
【参考書】	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
経済学	三浦　秀樹 一般	佐藤(篤)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

さまざまな問題を抱える今日の経済社会において生活者として日常的な経済問題を認識しつつ経済活動を営むことを念頭に経済の基礎について学んでいきます

【学習目標(到達目標)】

①経済を基礎とする社会の成り立ちを理解できる
②経済活動と自らの生活とのかかわりを具体的に把握できる
③実践的経済活動へとつなげていくことができる力を身につけることができる

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力

【履修上の注意】　シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ガイダンス	なぜ経済学を学ぶのか 日常生活と経済活動とのかかわりをイメージする	個人
2	経済学という学問	経済学の守備範囲 高校までの経済の理解とそれから先の理解をイメージする	個人
3	お金とは	貨幣経済の基本 お金の正体を知る	個人
4	お金の循環	貨幣流通の基本的仕組み お金はどこからきてどこに行くのかを具体的にイメージする	個人
5	経済活動の舞台①	「市場」という競技場 経済活動における競争原理のしくみを理解する	個人
6	経済活動の舞台②	「市場」のマジック 需要と供給、「見えざる手」について理解する	個人
7	経済が動かしているもの①	経済活動の主役「株」という化け物 「株」と株式市場	個人
8	経済を動かしているもの②	経済活動の指針と評価 「景気」と「物価」について理解する	個人
9	経済を動かしているもの③	経済活動の媒体 「商品」、「サービス」について考える	個人
10	経済を動かしているもの④	「会社」と「仕事」 「利益」と「給料」のしくみを知る	個人
11	経済社会のコントロール	「経済政策」の実効性 政治と経済とのかかわりを理解する	個人
12	国家の経済的基盤	国家財政と国家作用 「税金」のしくみとその使い方についてイメージする	個人
13	社会保障と経済	「しあわせの実感」と「夢のある将来」は可能か？ 社会保障制度のしくみと「年金」について考える	個人
14	社会問題と経済	現代社会の諸問題 「食糧」、「環境」、「労働」について考える	個人
15	まとめ		個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　60% 授業への貢献　40%	

【教科書】	担当教員が指示します
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
児童福祉論	緑川　浩子 一般	佐藤(篤)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

子どもの権利とは何か、さらに児童家庭福祉の現状と多様化するニーズとその対策について学習する。

【学習目標(到達目標)】
①「児童の最善の利益」とは何かを理解できる
②未来を担う児童の育成の責任とは何か理解できる
③児童に関する具体的制度・施策を理解できる

【受講して得られる力】
前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力

【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	児童家庭福祉とは	児童家庭福祉の基本理念 わが国の「児童福祉法」「児童憲章」から児童の福祉とは何かを考える	個人
2	子どもの権利とは	子どもの権利と権利保障 さまざまな条約によって、子どもの権利が保障されていることを学習する	個人
3	児童家庭福祉の発展過程	欧米の児童福祉の歴史 年表作成	個人
4	〃	日本の児童福祉の歴史 年表作成	個人
5	児童家庭福祉の現状	児童を取り巻く現代社会の把握 家庭機能の変容と少子化等がもたらす問題を学習する	個人
6	児童家庭福祉サービス	要保護児童のための福祉サービス 社会的養護とは何かを学習する	個人
7	〃	被虐待児のための福祉サービス 児童虐待の実態、「児童虐待防止法」について学習する	個人
8	〃	非行児童、障害児のための福祉サービス 非行少年に対する施策と障害児のための児童福祉施設について学習する	個人
9	〃	ひとり親家庭と母子保健サービス 子育て支援、母子のためのサービスと児童の健全育成について学習する	個人
10	児童家庭福祉に関する法制度	児童福祉六法	個人
11	〃	児童福祉六法	個人
12	児童家庭福祉の実施機関	児童家庭福祉の組織と役割 国・市町村・都道府県の役割と機関の実際を学習する	個人
13	児童家庭福祉の援助の実際	児童相談所による支援 児童相談所の機能と具体的な支援内容を学習する	個人
14	児童家庭福祉の専門職	どのような児童福祉従事者がいるのか 児童福祉従事者の配置場所、職務内容などを学習する	個人
15	まとめ		個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 40% 授業への貢献 60%	

【教科書】	第5巻　児童・家庭福祉(学習双書2026)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
法学	渡辺　信英 一般	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

日本国憲法は試練に耐え国民のために成立した法制度であり、人間の尊厳、生命、幸福、福祉など介護の専門職を目指す学生にとって大切な内容を含んでいる

【学習目標(到達目標)】

①自然法を説明することができる
②生存権の判例を習得することができる
③基本的人権を理解し、社会の問題に適用することができる
④幸福追求権・平等権・表現の自由についてグループワークで論議することができる
⑤憲法の意義、憲法の構造を習得する

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力

【履修上の注意】　シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	憲法の意義	憲法の意義・立憲主義・日本国憲法の基本構造を理解する	個人
2	人権の概念	人権の概念・人権の歴史・人権の分類・人権の限界について理解する	個人
3	人権の享有主体性	外国人の享有主体性・法人の享有主体性・判例を理解する	個人
4	人権の妥当範囲	人権の妥当範囲・基本的人権の限界を理解する	個人
5	教養とは	教養について学生個人、グループワークで授業をすすめる	個人・グループワーク
6	自然法①	人間の自由のために自然法が主張され、人権の萌芽がめばえた	個人・グループワーク
7	自然法②	ホップス・ロック・ルッソーについての理論を比較する	個人・グループワーク
8	生存権	生存権の理論を理解し、判例の歴史的変遷を習得する	個人
9	基本的人権の内容と制限	基本的人権を構成する権利を理解し、グループワークで課題を討議する	個人・グループワーク
10	小テスト	今までの授業の理解を確認するためのテスト	個人
11	幸福追求権①	幸福追求権を理解し、新しい人権をグループワークで論議する	個人・グループワーク
12	幸福追求権②	幸福追求権についての判例を検討して、グループワークで論議する	個人・グループワーク
13	平等権	平等権を理解し、代表的な判例を批評できるようにする	個人・グループワーク
14	表現の自由①	表現の自由の多様な権利を把握し、判例を批評する	個人・グループワーク
15	表現の自由②	表現の自由の多様な権利を把握し、判例を批評する	個人・グループワーク

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　40% 授業への貢献　60%

【教科書】	日本国憲法　人権と福祉
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて